

早稲田大学 政治経済学部 数学 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	早稲田大学の政経学部の問題は、問題によっては理系のレベルで出題されることもあるので、深い理解、知識が必要である。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
問1	階差数列と群数列	答のみ求めるのならば、具体的数字を代入してみればすぐ求まるが、一般的証明まで要求されるとけっしてやさしい問題とはいえない。	標準
問2	(1) 二次関数の範囲 (2) 三次関数の最大値問題	$\sin \theta = t$ と置き換えることによって、三角関数というよりは、二次関数、三次関数になることがポイントである。	標準 (やや易)
問3	確率漸化式 三項間の漸化式	(A) の連立漸化式が求まれば、あとは確率というよりも単なる三項間の漸化式のパターン問題であるが、文系の受験生にとって、三項間はやさしくないはずである。	やや難
問4	対数関数の不等式	底の条件で場合分けするだけの単なる計算問題である。	基本

〔総合コメント〕

出題分野を見ると、出題範囲からのバランスの良い出題内容にはなっていない。きちんと記述させれば、文系の受験生にとって決してやさしくない内容も含まれるので、普段から証明も含めて深く理解しておく必要がある。

問題のレベルから見て、高得点を争うことになるだろう。